

## 岩手県第 7 5 回原状回復対策協議会資料

### 資料 1 ワーキンググループの活動状況について

## 1 概況

今年度第2回目の会合を平成30年8月6日（月）に開催した。現地視察を中心に、原状回復事業の進捗状況を踏まえて植栽試験の中間評価を行った。また、昨年度作成したDVDを活用すること等により、普及啓発活動や環境学習活動を展開している。

## 2 植栽試験関連

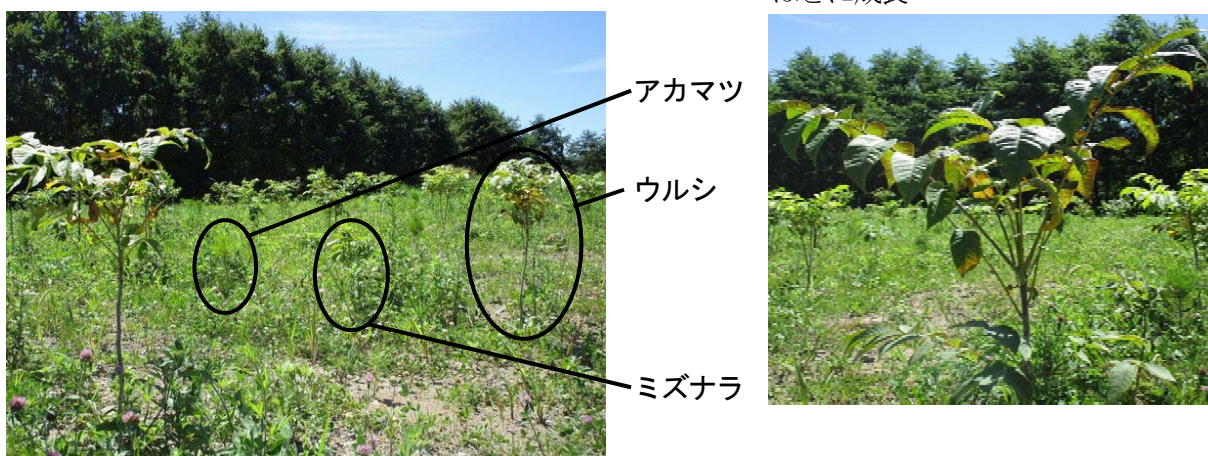
### (1) 樹木の生育状況

今年度は、①地域の特産樹種であるウルシ、②環境耐性が強いアカマツ、③現場の代表樹種であるミズナラを植樹した。また、地盤については、①排水性の改良を施した箇所、②改良なしの箇所に分けられる。それぞれの8月末時点での生育状況は、以下のとおりである。

	改良土壌	無改良土壌
ウルシ	順調に生育	根腐れにより全て枯死
アカマツ	まずまずの成長。ほとんど枯死せず	同左
ミズナラ	成長に遅れ	成長に遅れ。部分的に枯死
全体	ウルシの成長が目立つ	アカマツの成長が比較的順調

・土壌改良地区全景。ウルシの成長が目立つ。

・ウルシは樹高120センチほどに成長



### (2) 考察及び今後の課題

ア 不法投棄現場は元々山林及び農地であったが、表土は不法投棄により撤去を余儀なくされたため、現在の土壌は全般にわたり赤土主体で固く、樹木の生育には不向きと考えられる。

イ 現地は春季及び夏季については比較的穏やかな気候であるが、秋季以降は強風、寒さ及び多雪に見舞われる地域であり、今年度植樹した樹木が、これらの悪条件への対策を講じなくても生育できるかどうか、今後の森林再生の難易度を判断する上で重要となる。

ウ 植樹による森林再生が難しい場合には、一定期間は自然に任せた植生回復を基本としつつ、そのスピードを早める草刈り、すき込み等を必要に応じて行っていくことも考えられる。

エ どのような形で跡地利用・環境再生を図るかによって好ましい地形が変わってくるので、利用用途を見極めた上で本格的な跡地整形を行っていくことが望ましい。

### 3 普及啓発・環境学習関連

#### (1) カシオペア環境フェスティバルの開催

##### ア 開催日時及び場所

平成30年7月28日（土）午前10時～午後3時 二戸市シビックセンター

##### イ 主催

カシオペア環境研究会、県北広域振興局

##### ウ 来場者数

親子連れ 340人

##### エ 主な内容

- ・エコキャラコンテスト展覧会・表彰式、環境クイズラリーによるパネル展示
- ・小学生による水生生物調査報告会、ネイチャーゲーム、エコバッグ作成教室 など

##### オ 県境不法投棄事案に係る活動内容

- ・パネル展示と表彰式後のDVD放映

##### カ 開催状況写真

- ・表彰式会場内の様子

- ・パネル展示



#### (2) 地元高等学校での出前授業の開催

##### ア 実施日時

平成30年9月19日（水） 午前10時45分から11時35分まで（3校時目）

##### イ 対象

岩手県立福岡高等学校 1年生（166名）

##### ウ 講師

一般社団法人岩手県産業廃棄物協会事務局長 玉懸 博文 氏

##### エ 内容

現代社会の授業として、次のとおり実施すること。

- ・DVDの放映
- ・県境不法投棄事案についての講演
- ・質疑応答

##### オ その他

他校（中学校・高等学校）での実施について、今回の実施結果を踏まえ関係機関と調整を行っていく予定であること。